

2025年度 入試問題分析シート

一橋大学

前期日程

科目	数学
----	----

総括

試験時間	120 分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	130~330 点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

昨年に比べて難度が上がり、計算量も増加した。文系の受験生にとっては、すぐに完答できそうな問題がなく、苦戦したことであろう。

来年以降もこのレベルの出題が続くと考えて、十分な準備をしておきたい。

〈特記事項・トピックス〉

例年通り、**1**は整数問題、**5**は確率であった。また、微積分、空間座標も一昨年、昨年に引き続き出題された。残り1問は、軌跡の問題であった。

〈合格への学習対策〉

一橋大学の数学は、（一昨年、昨年のような例外の年もあるが）文系としては難しいものであり、計算力、発想力および正確な論証を必要とする問題が目立つ。基本事項を理解した上で、問題演習を繰り返し、問題を解く発想力と結果を正しく導き出す計算力、および解答としてまとめる論述力を養う必要がある。特に、頻出分野の整数、確率、空間の計量を含めて図形問題には十分に力を入れて学習しておいた方がよい。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	記述式	A	整数	正の整数に対して定義された関数の最大値を求める問題で、(2)の利用がポイントになる。記述力も問われる問題である。	やや難
2	記述式	II	図形と方程式	2円の位置関係と、直線に関する対称点の軌跡に関する問題である。点Qが2円の中心を通る直線上にあることを利用するとよい。	標準
3	記述式	II	微積分	絶対値を含む定積分の計算を実行すればよい。 $0 \leq a \leq 4$ のときには、 $t = \sqrt{a}$ とおきかえて増減を調べることになる。	標準
4	記述式	C	空間ベクトル	2本の半直線に接する円の中心を求めることに帰着する。結局のところ、今年の問題の中では最も完答しやすいであろう。	標準
5	記述式	A	確率	n の偶奇によって場合分けが必要であることに気付かないと、話しが始まらない。(1)、(2)でやるのが異なり、試験会場ではかなり難しく感じただろう。	やや難

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。